



簡易ベッドやテント等を組み立てながら、避難所での生活を疑似体験。



独自に訓練を実施した矢場崎町内会。避難所としている集会所への参集や、緊急時の役割分担、避難生活時のルールなどを確認しました。



避難所に設置されている災害時特設公衆電話や、町防災行政無線の通話機能を用いて、災害時の外部との通信手段を確認しました。



町ボランティア連絡協議会の皆さんが、炊き出し訓練でカレーライスを作り、各避難所へと配食。



五城目警察署の署員が、各避難所付近で避難者への誘導などを行いました。



自主防災組織育成リーダーの方々が、町防災マップ等を用いながら、地域で想定される災害や緊急時の行動についての講話を行いました。



町社会福祉協議会の皆さんは、災害時に必要となるボランティアの受け入れや調整等を行う拠点の開設・運営の訓練を実施。



第5回町総合防災訓練

地域一丸で災害へ備える

5月22日、地震による家屋の倒壊や大雨による洪水災害の発生時を想定した「第5回町総合防災訓練」を実施しました。大川地区をはじめとする町民の皆様ほか各関係機関の職員など、約110人の参加・協力をいただき、緊急時の行動やそれぞれに求められる対応、避難所の開設・運営の方法などを確認しました。

災害発生時に避難所となる各施設の担当職員等が主体となり、避難者の受け入れや避難所の開設・運営などを実践。

避難時の行動などを確認 町総合防災訓練

5回目となった今回の町総合防災訓練は、震度6弱の地震と断続的な降雨により洪水災害が発生したという想定で実施しました。午前9時30分に町防災行政無線で避難を呼びかけ、訓練に参加した大川地区の皆さんが、避難所に指定した旧大川小学校体育館、五城目高校にそれぞれ避難しました。避難後は、それぞれの避難所で参加者が協力しながら、室内テントの設置やパーティションの組み立てを行うなど、避難所開設・運営の訓練を行いました。

また、参加した各関係機関がそれぞれの役割や連携を確認し、五城目警察署の署員は避難所付近での誘導を行ったほか、各施設の管理者や担当職員は避難者の受け入れや避難所開設の手順の確認を、町ボランティア連絡協議会の皆さんは炊き出しや各避難所への配食を行いました。

昨年12月に町と災害時の連携協定を締結した町社会福祉協議会では、大規模災害発生時に必要となるボランティアの受け入れや派遣などを調整する「災害ボランティアセンター」の開設・運営の訓練を実施し、避難所への用具の貸し出しや運搬、体調不良者が出た場合の救護体制などを確認しました。

住民主体で 防災力の向上を図る

避難所の開設・運営訓練の際は、町職員や自主防災組織育成リーダーによるサポートのもと、各地域の避難所運営委員が主体となって訓練を進行。訓練時や終了後にそれぞれ意見を交わしながら、課題や改善点等を確認しました。

また、矢場崎町内会では、独自に避難訓練を実施し、避難時の役割分担や、避難所でのルール等を共有しました。

今回のような訓練に加え、町内会や自主防災組織と連携した訓練の機会を今後も設け、町民の皆様の防災意識の高揚を図りながら、課題の洗い出しとその改善により、災害に強いまちづくりを進めていきます。



町役場では災害対策本部訓練を行い、災害時の対応の協議や、登録制メールの配信をテスト。